

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 215

2014/07/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

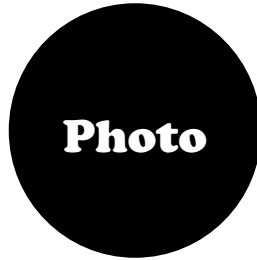
GREEN COLUMN

01. 特別展の目玉資料

02. 今年も縄文土器を作ろう



今月の一枚



「野鳥で観る、美幌町の四季」

表紙写真／前田武夫・文／町田善康

巣穴から顔を出し、エサをねだるアカゲラのヒナ鳥。初夏を過ぎると、親鳥と変わらないくらい大きく育ったヒナ鳥は、食べざかりです。親鳥は、ヒナ鳥のためにひっきりなしにエサを運びます。

今回の特別展では、町内在住のアマチュア写真家 前田武夫さんから寄贈して頂いた、野鳥の写真を展示します。写真からは、豊かな美幌町の自然にくらす様々な種類の野鳥の姿が見てとれます。多くの方にご来館いただき、美幌町の野鳥について、四季折々の風景と共にお楽しみいただければ幸いです。

Event. 今月のイベント

特別展「ボクたちの町にくらす野鳥」 7月6日(日)～10月26日(日)

プチ工房「どうぶつキャンドル」 7月10日(木), 17日(木)

第4回 自然講座 「ヘイケボタル～光の不思議」 7月12日(土)

モノ作り講座「ジェルキャンドルを作ろう」 7月27日(日)

Information. 参加者募集

プチ工房 「どうぶつキャンドル」

● 7/10(木), 17(木) 10:00 - 12:00, 13:00 - 16:00 自由に入室。作品ができれば終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費 (300 円) ●城坂結実 (美幌博物館) ●申込み不要

モノ作り講座 「ジェルキャンドルを作ろう」

● 7/27(日)【午前の部】10:00 - 11:30【午後の部】14:00 - 15:30 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費・保険料 (700 円), 軍手, 汚れてもよい服装 ●城坂結実 (美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み (7/1 - 7/23)。対象は幼児から一般、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。各回定員 16 名で締切。申し込み後のキャンセルは 7/23 まで。それ以降は保険料 (100 円) が必要。

モノ作り講座 「小さな水族館を作ろう」

● 8/1(金), 2(土)【午前の部】10:00 - 12:00【午後の部】14:00 - 16:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費・保険料 (400 円), 汚れてもよいタオル, 空きビン (高さが 5 - 10 ㍓, きれいに洗ってラベルをはがしたものの), 作りたい水族館の生きものの写真 ●城坂結実 (美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み (7/1 - 7/29)。対象は幼児から一般、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。各回定員 16 名で締切。申し込み後のキャンセルは 7/29 まで。それ以降は保険料 (100 円) が必要。

夏休み子ども工作教室 「光シグナル地図模型を作ろう」

● 8/6(水) 9:30 - 12:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費・保険料 (300 円), 汚れてもよい服装 ●小林道臣 (美幌博物館学芸協力員) ●美幌博物館へ電話申込み (7/1 - 7/21)。対象は小学3年生から中学3年生。定員 12 名で締切。申し込み後のキャンセルは 7/30 まで。それ以降は保険料 (100 円) が必要。

夏休み子ども歴史教室 「原始人になってみよう」

● 8/9(土) 9:30 - 14:00 ●美幌博物館 ●材料費・保険料 (600 円), 肌の露出が少なく汚れてもよい服装, 軍手, 昼食, 飲みもの ●八重柏誠 (美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み (7/1 - 8/5)。対象は小学生。定員 12 名で締切。申し込み後のキャンセルは 8/5 まで。それ以降は保険料 (100 円) が必要。

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

今月の休館日

7日, 14日
22日, 28日

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

特別展の 目玉資料

写真・文／町田善康

博物館や大学に収蔵されている
標本からは、地域の自然情報
をひも解くことができます。

美幌博物館には、1987年（昭和62年）から収集されてきた、300点を超える野鳥の標本があります。その一つひとつを丁寧に確認していくと、様々な種類の野鳥が美幌町にいらしていたことがわかります。なかには、アジサシやコシジロウミツバメなどの海鳥もあり、鳥類相が多様なことに驚きます。

さらに、近隣の博物館や大学、研究機関、そして海外の博物館など様々な場所で、美幌町で採集された野鳥の標本を探しました。

すると、千葉県にある公益財団法人山階鳥類研究所で、アトリとキセキレイの標本がみつかりました。しかも、現存する美幌町で最古（1953年）の鳥類標本ということが、明らかになり

ました。この標本の野鳥の採集者である友田安雄氏は、小清水営林署（当時）に勤務され、のちに国際鳥類保護会議日本支部の事務局長になられています。鳥類学に精通し、藻琴山におけるマダラウミスズメの繁殖記録などの発見に貢献されました。

今回の特別展にあわせて、山階鳥類研究所より、この標本を特別にお借りしました。一般公開される予定はなく、今回の展示会をおいて、見て頂く機会がありません。千葉県から、ふるさと美幌町に61年ぶりに里帰りをした貴重な標本を、是非、ご覧下さい。

なお、非常に貴重な標本のため、暗所での展示になっています。フラッシュ撮影もご遠慮頂いております。また、展示室の温度が上がった場合、展示を急遽、取りやめる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。



公益財団法人山階鳥類研究所 所蔵

今年も縄文土器 を作ろう

写真・文／八重柏誠



美幌博物館で行われる土器作り講座も、今年で6年目になりました。土器作りを始めたころの苦労といえば、火加減に悩まされたことでしょうか。じっくり待つのが土器焼きの基本です。ところが、せっかちな私は早く焼き上げようと思い、少し早めに火力を上げてしまいました。すると「ポンッ、ポンッ!!」という音とともに、土器が割れてしまったのです。私にとって苦い思い出ですが、今ではあせる気持ちをグッとからえて、ほぼ割れずに焼き上げることができるようになりました。

今年は講座参加者に混じって、煮炊きができる程度の大きさの土器を作っています。いずれは、縄文土器で料理に挑戦を・・・と思いつつ、まずは土器が完成しなければ意味がないので、しばらくは、土器作りに励もうと思います。

土器作りと言えば先日、過去に埋蔵文化財調査事務所として使われていた敷地に行くことがあったのですが、その敷地から、土器ならぬ粘土のカタマリが出てきたのです。この粘土について調べてみると、約20年前に、土器作りを行うために埋めておいたものということがわかりました。一冬越えたところで掘り起こそうと思っていたものが、春になって目印を見失い、それっきりになっていたとのこと。まるで、埋めておいたエサの場所を忘れたエゾリスのようですね。

せっかく見つかった粘土なので、精製を行って土器作りに使ってみようと思っています。美幌産の粘土で作った土器は、どのような色に焼き上がるのか、はたまた大失敗してしまうのか。講座の野焼きには間に合いませんが、今年中には土器を作って焼き上げてみたいと思います。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



先日、子供が生まれたこともあり、大きめな車に買い替えました。その車を運転中、車線変更しようとウィンカーをあげたところ、「後ろから車が接近しています、注意してください。」とアナウンスが……。最近の車の安全装備には驚かされますね。(八重柏)